



新型コロナウイルス感染対策と禁煙のすすめ

新年あけましておめでとうございます

JR 根岸線港南台駅そばにある総合病院で診療している宮沢と申します。地元横須賀のソフトボール・チームでお世話になっている加藤幹雄様のご縁で投稿させていただいています。また、当会事務所近くの横須賀市立粟田小学校の卒業生であり、横浜事務所近くの横浜市立大学に通っていたこともあり、当会とは遠からぬ縁を感じております。

思い起こせば令和2年は新型コロナウイルス一色の1年間でした。2月に横浜に入港したダイヤモンド・プリンセス号の乗客を当院でも受け入れ、私達が担当しました。当時は未知のことも多く、戦線恐々の毎日を過ごしていました。外国籍の方でしたので、大使館から担当者の来院もあり、英語での対応にも苦慮しました。幸い重症化することもなく、PCR陰性を確認し退院・帰国されました。

そのうちに市中に感染者が出始めて4月には本邦でも緊急事態宣言が出されました。8月には当院で院内感染が発生し、新聞報道もされました。その事例を振り返ってみると、誰が感染者か分かり難いこと、同室者に容易に感染してしまうことに恐怖さえ感じました。その後、当院では感染対策を強化し、入院する患者さん全例にウイルス検査を行っています。

私は30年にわたり呼吸器科診療に従事してきましたが、ウイルス性肺炎の経験はほとんどなく、骨髄移植後等で免疫抑制剤を使用していた患者に限られていました。しかし、新型コロナウイルスは健常人でも肺炎を生じてしまう方が多く、今までにない臨床経

済生会横浜市南部病院
呼吸器内科主任部長
宮沢 直幹



過を辿ります。今のところ特効薬やワクチンは無く、日常の感染対策を遵守するしかありません。

ウイルスの感染経路は接触感染（さわってうつる）、飛沫感染（つばきが飛んでうつる）、エアゾール感染があります。エアゾールは飛沫が霧状に粒子化されたもので、それが密閉された室内に浮遊していると同室者が吸い込んで感染してしまうのです。3密（密閉、密集、密接）を避けることにより、この接触・飛沫・エアゾール感染を防ぐことができます。接触感染を防ぐため、手洗いも重要です。

新型コロナウイルスは気道上皮細胞表面の ACE2 受容体を介して細胞内に入り込み、感染すると考えられています。タバコを吸う人では、この ACE2 受容体が増加していることが分かっています。喫煙者は新型コロナウイルスに感染し易く、長年の喫煙による肺へのダメージと相まって重症化、人工呼吸器装着、死へとつながります。新型コロナウイルスの再発例も報告されており、一度罹れば済むものではありません。タバコを吸っている方は、今からでも決して遅くはないので、この機会に禁煙に取り組まれることを切に願っています。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



新年のご挨拶

丑に秘められた新たなる萌芽を想う

新春を迎えお慶び申し上げます

理事長 木下 武



本年は干支の2番目、丑年の新年を迎えました。

昨年は、未曾有の新型コロナウイルス禍に見舞われ、緊急事態宣言が発令され、活動の自粛を余儀なくされる事態となりました。期待されたオリンピックも延期され経済も停滞している状況はご承知の通りであります。

コロナ禍は当然のことながら当会にも及びました。事業活動は抑止され、会内の会議は停止状態になり、財政見通しも厳しくなっております。

そのような中で、リモートワークの多い海外事業活動が順調に推移していることはありがたいことといえるかと思われます。また、通常総会、臨時総会、理事会は電磁的手段等を活用して遅滞なく実施しました。春に続き、11月には観音崎自然博物館の協力を得て、元気ファンド事業を実施。感染対策をしながら子供たちが横須賀の自然を楽しむ「ものづくり教室」を開催し盛会でした。

また、会内では今後の事業活動の進め方について、Webによるビジュアルコミュニケーション、IT支援やIoT支援などの意見交換がありました。

高齢化に加えコロナ禍で、ともすると私たち高齢の世代は身動きが取れない事態となっております。自宅待機や団体活動の自粛などで世の中のボランティア活動全体が停滞することが懸念されます。そんな中で個々が、ボランティア団体が、社会とどう繋がりを持続するかが大きな課題ではないでしょうか。当会でも、このコロナ禍の中で、オンライン会議の

活用による会員有志間交流が実施されるとともに、Webサイトの更新通知やメルマガ発行による情報発信の提案があり、ボランティア活動の意義を再確認し、私たち自身の持続可能な目標の展開を強く感じているところであります。

一方、コロナ禍による産業構造のイノベーションが興るとの識者の見解があり、二つ目は、国の経済成長戦略として、①環境対策(脱炭素化に2兆円の基金)、②デジタル化に1兆円支援を掲げています。この二つの動向を適確に見て、新しい支援課題として研鑽する必要があると考えています。是非、皆様からのご提案もお寄せ下さい。

干支の丑は、『漢書』律曆志によると、「紐」(ちゅう:「ひも」「からむ」の意)。芽が種子の中に生じてまだ伸びることができない状態を表しており、指をかぎ型に曲げて糸を撚ったり編んだりする象形ともされるようです。

今年もコロナ禍の中で牛歩を続けざるを得ないと思われま。丑は新しいものを生み出す隠忍自重の時と捉え、NPO活動について、新しい芽吹きを模索し育成したいと考えております。

最後に、皆様のますますのご健闘とご健康を祈念いたします。また、当会に対しても変わらぬご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

【歳時記】カフェグレース

晩秋の陽が少し傾き、少し肌寒いある日、汐入の駅に降り立った。冷たい潮風を感じた。少し空腹を感じ食べ物屋を探した。駅の横道に小さな喫茶店が目に入った。カフェグレースと書いてあった。中に入ると白い八脚の椅子と壁際の大きな本棚と六・七点の絵が飾られている小さな店であった。

「コーヒーを注文し奥のご主人に声をかけた」「この店は大分古いのですか」

「ご主人「湘南から五年前に出て来て、店を開いてまだ二年です」「なにか落ち着ける店ですね。何のきっかけでこの店を開かれたのですか」

「前に長く湘南に居ましたが、両親の病死その他不幸が重なりました。丁度その頃定年を迎えました。若い時楽しい思い出があり、海山の自然豊かな横須賀で残りの人生を思い切ってやり直そうと考えました」

「この店を開こうと思ったのは、学生時代に大変苦しんだ時がありました。次のライフワークとして心の病で苦しんでいる人が立ち寄れるオアシスを作りたい、と考えました。この喫茶店をそのような場にしたいのです」

「本がたくさん置いてありますね」「若い時本が大好きでした。図書館によく行きました。しかし横須賀の図書館は駅から遠い。駅の近くにゆつくりと本を楽しめる所にもなったら良いなと思いました」

「絵が飾ってありますがどなたの絵ですか」「この絵は両手両足が動かない人が口で一生涯懸命に描いた絵です。この人たちに比べたら私の苦勞なぞたいしたことではないです。私はこの絵に大きな勇気をもたらしました」

「この店をやつてよかったことは何ですか?」「近頃高齢の一人暮らしの人が出かける所がなく、ウツになつていらっしゃる方が多いのです。そのような人たちがよくこられて会話や読書を楽しんでおられます。この店が名前の通りの憩いの場になった、この店をやつてよかった、と感じています」

何か暖かい気持ちに身を包まれて店を出た。秋の陽がすっかり傾き心地よい潮風を頬に感じた。(晴)



歴史散歩

三浦一族の城址を訪ねて

個人会員 伊澤 俊夫

1 年前の晩秋の頃であった。趣味の自転車で平塚の田園地区を走って、伊勢原市近くの小高い丘の上に出た。宅地の合間の急坂を駆け上がった所に「岡崎城址」と記された白柱と案内板が小さな古寺（無量寺）の縁起を表していた。この時は、鎌倉時代の三浦氏ゆかりの山城跡地と認識しただけで深く考えることもなく、その場を後にした。



岡崎城址（無量寺）

その後、NPO 法人産業クラスター研究会の活動を知り、小学校 1 年生まで住んだ横須賀の地で、何かお役に立つことが出来ないかと入会した。横須賀を離れて半世紀以上、親類縁者もなくなり、殆ど無縁の状態であった。会の活動で横須賀の地を訪れる度に、身体の中に自然と入り込んでくる空気に、なにか懐かしさを感じた。そして偶然立ち寄った古寺（無量寺）が三浦氏ゆかりの場であった縁から、三浦氏の歴史に興味を持った。

古代、三浦半島の地域は東海道相模国に属し「日本書紀」には「御浦」と記されていた。8 世紀頃の相模国の区域推定人口が 102,000 人、現在の（略神奈川県域約 9,000,000 人）1 / 90 程度であった。

今から 1000 年前に、半島を中心として一時期相模国の半分ほどを抑えた三浦氏はどのような氏族であったのか。三浦氏は平家直系の氏族であることを知った。そしてこの一族の栄枯盛衰は鎌倉幕府成立の歴史の中に組込まれたドラマを見るようであった。

1051 年～62 年の「前九年の役」の戦功で源頼義から相模国三浦に領地を安堵された三浦平大夫為通が衣

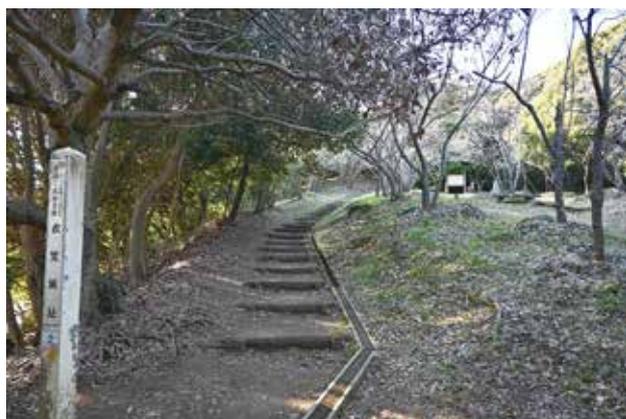
笠山麓に衣笠城を築城した。この城はその後 為継・義継・義明 4 代の三浦半島統治の中心となった。

義継は相模三浦郡を支配し、その義継の四男で三浦大介義明の弟義実が相模国大住郡岡崎（現在の平塚市岡崎）に住み、岡崎城を築城し、岡崎四郎と号した。岡崎義実は忠義心厚く、源義朝を慕い、頼朝の挙兵に呼応して石橋山の合戦に参じ、三浦の 4 棟梁の一人といわれた。

その後時代が進んで、1494 年三浦道寸が義父三浦時高を滅ぼした後、岡崎城に居城したが、相模一国制覇を目指した北条早雲に攻められ落城した。いつしか三浦氏滅亡の歴史の中で岡崎城の存在も忘れられていった。

一方三浦氏の直系の居城となった衣笠城の歴史はどうなったのだろうか。義明の時代、源頼朝の挙兵に呼応したが、頼朝が石橋山の戦いで敗れ房総半島に逃れた後、平家の畠山重忠と衣笠城合戦で激しい攻防の末義明が討死し落城した。

その後衣笠城は鎌倉幕府成立時に再び三浦氏の拠点となった。しかし幕府内での北条氏との権力争いで、1247 年宝治合戦で敗れ直系の三浦氏は没落し、衣笠城は廃城となった。



大善寺裏手本丸跡を望む

今回の寄稿に当たり、再度岡崎城址と衣笠城址を散策し、鎌倉幕府時代の三浦一族の栄枯盛衰に思いをはせた。現在、両城址は共に市の指定史跡になっているが、周辺は農地、宅地が迫っていて、普段訪れる人も少ないようである。

事業活動紹介



～会報誌創刊と「ぶどうのささやき」の由来について～ 事務局広報チーム 新井 全勝

会報誌30号の発行という節目を迎え、小特集号を発行することになりました。これもひとえに当会にご支援・ご協力をいただいた多くの皆様と原稿の執筆を快諾していただいた方々あってのことと改めて思いを深くしているところであります。

本稿では、創刊号に焦点を当てて記します。

会報誌創刊の経緯

それは、創刊号の「瓢箪から駒が出た! 「ぶどうのささやき」の記事に生々しく描かれています。

【師走も押し迫ったある日、ホームページ(HP)部会が開かれ、HP新春版原稿の最終確認を行っていた。そして、一段落する。「ねえ」それは突然始まった。あたかも地震が突発したかのように。「HPもいいけど、会報誌の発行も面白そうじゃない?」「……」一瞬の沈黙のあともう一人が口を挟む。「それはいい! 当会には新聞社系出版社で編集長を努めていたという個人会員もいるし、彼女なら引き受けてくれそうじゃない」この一言がトリガとなって、会議はフリートーク風雑談会へと変身する】—ここに創刊の最大のポイントがあったことが窺える。

そして、その日のうちに、編集長候補の携帯が鳴り内定したのはいうまでもないことである。

当会の前身である任意団体「産業クラスター研究会」が創立されたのは平成15年(2003年)8月。その翌月には早くもHPは開設された。NPO法人格の取得は翌年5月。そして、会報誌の創刊は4年後の5月であった。

情報チャンネルとしての位置づけと

「ぶどうのささやき」の由来

情報チャンネルとして、HPが先行して開設されたのは、HPが発明されて20余年、すでに情報化社会のただ中にあることが主要因と思われる。HP、会報誌の位置づけについて、初代理事長は創刊号の巻頭言で次のように語っている。

【当会の専門分野及び公式的な情報は、従来通りHPをご覧いただくことにして、「ぶどうのささやき」では、活動の裏話や担当者の想いなどの紹介を交え、親しみやすい文字通りささやき合いの広場にふさわしい情報チャンネルにして行きたい】

NPOは活動や財務状況を公開する義務があり、公開性・アクセスの随意性を考えると、この位置づけは当を得ていると思われる。会報誌は会員相互の情報交換を主目的とし、事業活動、法人会員紹介なども加えて一般の人々への広報も兼ねることとしたのである。

前述の「瓢箪から駒が出た!」の記事によると、最初に討議されたのは会報誌の位置づけであり、名前である。炬燵に入って蜜柑を摘みながらでも気楽に読める小冊子を目指す意味で、会の機関誌よりは広報誌という位置づけに、「産業クラスター研究会ニュース」という無難な名前よりもクラスターの語意を汲んだ「葡萄の囁き(ぶどうのささやき)」が題字として採用された。

こうして「ぶどうのささやき」の題字が誕生したのである。また、今も、会報誌と広報誌という言葉が交錯しているが創刊時の残照である。

創刊時と今

創刊時の会報誌の記事を拾うと、①巻頭言(理事長の発刊のご挨拶)、②歳時記、③部会活動紹介、④横浜新事務所の開設(トピックス)、⑤「人人…人」(人物紹介)、⑥法人会員紹介、⑦イキヌキ・イキガイ(趣味紹介)、⑧事務局からのお知らせ、⑨瓢箪から駒が出た! 「ぶどうのささやき」(トピックス)、⑩編集長のささやき(編集後記)の10記事である。

このうち、「ささやき合いの広場」に該当する記事は、②、⑤、⑦、⑨、⑩の5記事あり、記事の側面からも、「ささやき合いの広場」についての妥当性を確認できる。

現状は、①巻頭言、②理事長挨拶、③歳時記、④部会活動紹介、⑤支援先企業/法人会員のページ、⑥歴史散歩、⑦事務局からのお知らせ、⑧トピックス、⑨羅針盤の9カテゴリの記事である。「ささやき合いの広場」に該当する記事は③、⑥、⑨の3つであり、会員相互の情報交換の場という当初の主旨は薄らいでいることがわかる。

しかし、会員数が限定されている中で会員に関する情報を紹介していくことは時とともに無理が生じる。その傾向はやむを得ない側面がある。

記事のカテゴリは、創刊時の10記事9カテゴリのうち6カテゴリが、遥かな30号の今に継承されている。そのことは、創刊時の誌面構成が適切であったことを示唆しているのであろう。

事業活動紹介



事務局だより

事務局 佐々木 興吉

当会も会員が高齢化しており、これまでの 7 部会体制を継続して、品質の高い支援を提供していくことは難しく、支援の効率向上を図るべきであるという皆さんの意見があり、昨年 4 月 重複している活動を統合することになりました。統合の内容は次の通りです。

- ①企業支援事業部会と環境事業部会の統合
- ②産官学連携支援部会は新しい公共支援部会に入る
- ③広報部会は事務局に入る
- ④海外関連事業部会はこれまで通りとする
- ⑤各部会には部会長と副部会長をおき、必要によりチームリーダーをおき仕事を分担する。

企業支援部会と環境事業部会の統合後の部会名は SMS (Sustainable Management System, 持続性ある経営管理支援) 支援事業部会としました。これにより従来 7 部会であったものが 4 部会となりました。

統合後の部会の中でも特に SMS 支援事業部会では、現在おかれている企業の環境や課題を背景に持続可能な経営を支援するために何をどのように支援していくべきかを検討しました。

また、新しい公共支援部会では従来の産官学連携支援部会の支援活動を取り込み公益事業として一本化、効率を図ることになりました。広報部会も限られた陣容の中、事務局部門のチームとして会の広報に専任することにしました。

事務局の会の中で果たしている役割りは、大きく分けて

(1) 総務・渉外 (2) 企画 (3) 会計になります。総務・渉外では①総務事項 ②総会・理事会の開催 ③外部との折衝などです。また、企画では事業計画の作成と事業報告書の作成・報告、会の運営全般、会計では経理業務全般となります。事務局になった広報チームは①会報誌発行 ②ホームページの維持・管理 ③会の広告・宣伝に携わっています。

せっかく新体制としたわけですが、昨年 4 月 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、当会も活動を自粛することになり新体制での活動は大きく停滞しました。特に対面での企業支援活動が主な部会は多大な影響を受ける事態となっています。また、講演会やセミナーの開催や、現場見学会開催など公益のイベントの企画や実施も延期や中止をせざるをえない状況となっており、新組織の中で支援活動を継続するためには活動形態を検討せざるをえない状況となってきていることは全く予期しなかったところです。

コロナ禍の昨年は失われた 2020 年ともいうべき年でありました。会員の皆さんの協力を得ながらコロナ禍で制限された活動状況を打開すべく協調精神、全員参加、楽しくをモットーに、個々の皆さんの時間と能力を有効に活用できるように環境作りをすること、公明正大な運営と丁寧な情報発信に努めていきたいと思えます。



新春の立石

事務局からのお知らせ

(事務局 佐々木興吉)

2020 年度 4 月以降について次の通りお知らせします。

1. 2020 年 4 月 20 日 第 1 回理事会を開催し、電磁式表決により 2019 年度事業報告の承認、組織変更と運営規定の改訂の承認、及び 2020 年度活動計画と予算の承認を行いました。
2. 2020 年 5 月 15 日 2020 年度通常総会を開催し、電磁式表決により 2019 年度事業報告の承認、組織変更と運営規定の改訂の承認、及び 2020 年度活動計画と予算の承認を行いました。
3. 2020 年 7 月 28 日 臨時理事会を開催し、電磁式表決により新監事候補の選任を行いました。
4. 2020 年 8 月 5 日 臨時総会を開催し、電磁式表決により新監事を承認しました。
5. 2020 年 11 月 22 日 昨年度に続き、観音崎公園においてコロナ感染対策を充分行い、2020 年度横須賀市 元気ファンド事業「ものづくり教室」を開催しました。昨年度同様多数の親子の参加がありました。
6. 2020 年 12 月 11 日 第 3 回理事会を開催し 2020 年度上期活動実績を報告しました。
7. 2021 年 2 月 18 日 (水) 「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間」事業として三浦市民交流センターにおいて地域の企業の皆さま向けに講演会を開催する予定です。内容は別途ご案内します。多数の参加をお待ちしています。

トピックス

横須賀の自然を楽しむ「ものづくり教室」の開催：観音崎自然博物館にて

当会では近年激しく減少していく横須賀市の人口に、ブレーキをかける方策がないかを模索しています。そこで子供たちに地元で見かける自然を教材にした「ものづくり教室」を行い自然豊かなこの地域の良さを心にとどめて、成長してもらいたいと考えました。

昨年度から横須賀市の特定非営利活動法人補助金「元気ファンド」で“「明日を担う子供達とその家族」に横須賀をアピールする事業。として県立観音崎公園内の自然博物館前で、子供たちを対象にした「ものづくり教室」を開催してきました。

今年は3連休の中日、11月22日「冬の陽だまり、の日曜日」に開催しました。春先からの新型コロナウイルス感染拡大で、遠くへの外出を控えた方々でしょうか、このところ公園内には連日多くの子供連れの方々が来場して賑わっていました。



参加した子供の作品「海幸・山幸」

昨年度も人気がありましたが、今年も同様に60人ほどの親子連れが立ち寄って、貝殻、シーグラス、松ぼっくり、どんぐり、竹材など園内にもある自然の恵みを組み合わせ、グルーガンで付け加えて子供独自の目線での作品を作り上げ、歓喜の声をあげていました。

中にはすぐ隣の「ただら浜」に貝殻やシーグラスを採取に行く子供達もいて、自然の有難さを知っていただけだと思います。

付添の父兄の方には子供たちの独創性を壊さないように、隣りに開いた、ハザードマップを中心にした、三浦半島の防災状況について知ってもらう「防災教室」を見られました。

これを機に親子ともども、横須賀を含めた三浦半島の自然環境や気候状況の良さを再確認して、三浦半島の繁栄にお力添えをいただければ幸いです。

(新しい公共支援部会 加藤 幹雄)

羅針盤

昨年の新型コロナの猛威。その感染拡大と経済低迷の心配は本年もつづく。これからの「新しい生活様式」、「経済復活」、「産業の革新」の興りは、どう進むのか。

▼疫病の歴史で、100年前のスペイン風邪は世界人口20億人で5000万人ほどの死者が出た。新型コロナは77億人でいまのところ153万人(2020/12/8現在)である。また、世界経済停滞のなか、各国の株価は高値で推移している。これは、1990年頃からの「グローバリゼーション」の有効な情報交換による対処法によると、識者(出口治明氏)はいう。筆者も共感する。

▼疫病と産業革命の史実に学ぶ。ペスト(黒死病)は1320頃年から1330年頃に中国で大流行し、1347年頃から中央アジア、ヨーロッパに伝わり、当時のヨーロッパの人口の1/3から2/3(2000~3000万人前後)が死亡した。そこで、産業の労働力が不足し機械化が進められ、新たな産業構造(産業革命)が創り出された。現在の技術文明を支える産業革命の材料の3要素は化石燃料、鉄鋼、ゴムである。材料技術は世の中を大きく変える力がある。さて、新しい産業革新の要素材料は何となるか(水素燃料、複合・新機能材料、環境プラ...!?)。

▼本号の理事長挨拶にある、アフターコロナの「産業の革新」と「国の成長戦略」[環境対策(脱炭素化)、デジタル化]の動向は、企業の新事業経営や当会の新支援活動に、よき「羅針盤」となるであろう。(昭)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先 : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武